

災害における在日外国人の支援

土浦第一高等学校 4 班

橋本千尋 柳沼直 飯村真緒 鈴木彩紗

指導教諭 本田由佳先生

【要旨】

地震や台風など、特有の災害がある日本に住んでいる在日外国人の支援を行うことを目的として、主にインタビュー、アンケートによる調査を行った。調査の結果、災害についての知識、その対策の方法を知らない人が多くいると分かった。この問題を解決するために、災害に関する情報提供が重要であると考え。そこで、より多くの人に災害に関する十分な情報を提供するため SNS を用いる方法を提案したい。

Support in times of disasters for people from other countries living in Japan

Hashimoto Chihiro Yaginuma Nao

Iimura Mao Suzuki Ayasa

Supervisor: Honda Yuka

【Abstract】

In order to support foreigners living in Japan, which has unique disasters such as earthquakes and typhoons, we conducted interviews and questionnaires. As a result, we learned there are many people who don't know about disasters and ways of taking measures for them. So we believe that providing information about disasters is important for them. Therefore, we will suggest using SNS to provide sufficient information about disasters to as many people as possible.

1 序論

I 研究動機

グローバル化の加速により、商品のコストダウンや後進国での雇用拡大、技術革新など多くのメリットが生まれている一方で、文化や価値観の違いによる対立や、技術の流出などのデメリットも存在する。実際、在日外国人の数は増加傾向にある。そこで、彼らが抱えるデメリットを少しでも軽減することはできないのだろうかと考え、調査することにした。

II 仮説

日本がもつ特徴の一つに、地震や台風などの災害が頻繁に起こる、ということがある。これは災害の少ない地域から来た在日外国人にとって災害に関する知識や対策などにおいて困難を抱える問題である。そこで、日本では災害における在日外国人の支援が不足しているのではないかと仮説を立てた。この仮説の検証のために、アンケートやインタビューによる調査を行う。

2 調査方法

I 仙台フィールドワーク

宮城県仙台市にある「仙台多文化共生センター」(写真1)を訪問し、宮城県在住の外国人の方々に向けて行っている災害における支援についてお話を伺ったり、施設内の見学をさせていただいた。



(写真1) 仙台多文化共生センター

II アンケート調査

沖縄県那覇市の日本語教室「サエル学院」様のご協力のもとで在日外国人約90名の方に日本での災害に関するアンケートを行い、その結果から必要な支援は何か考えた。

3 本論

① 調査結果

I 仙台多文化共生センターへの訪問

宮城県では、2011年の東日本大震災での経験を踏まえ、地震などの災害時に在日外国人向けのいくつかの言語に翻訳されたパンフレット(図2)を配布するなどといった対策が行われていた。また、日本語教室の開催を無償で行ったり、電話による通訳サポートや公的機関での手続きや相談対応に際して、コミュニティ通訳サポーターの派遣などを行っていた。一日におよそ30人が訪問していて、貴重な相談の場となっていた。

一方で、事情により施設に訪問できない人も多く、その人たちはパンフレットをもらえなかったり、相談に來れなかったりと、できる支援には限界が生じていることが課題。



(図2) パンフレット

II 在日外国人へのアンケート調査

アンケートでは90人の主にネパール人の在日外国人の方のご協力を得た。その結果は以下に示す通りである。

質問1 「日本で災害にあったことはありますか？」

- ある：93.4%
- ない：6.6%

質問2 「どんな災害に遭いましたか？」 (あると答えた人のみ回答)

- 地震：5.7%
- 津波：2.3%
- 台風：96.6%
- 大雨：2.2%

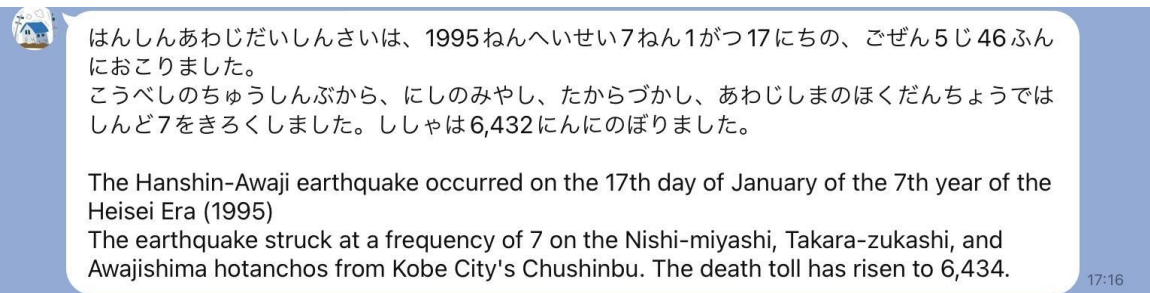
質問3 「日本で避難したことはありますか？」

- ある：1.1%
- ない：98.9%

質問4 「避難した時に困ったことはなんですか？」 (あると答えた人のみ回答)

- コミュニケーション：0%
- 食べ物：75%
- 情報の入手：25%

(図5)



4 結論

災害大国である日本に住む在日外国人の方々にとって、災害の知識を得ることによって被害を最小限にすること、万が一、避難することになったとき、不安を軽減するために避難場所での生活についての情報提供を行うことが必要であると考えたので、作成した公式 LINE を用いて在日外国人の方々に災害に関する知識やとっておくべき対策を発信すること、在日外国人の方々からの質問に回答することによって、少しでも多くの災害に関する知識を知ってもらいたいと思う。また、今回は公式 LINE しか作成できなかったが、機会があれば他の SNS サービスを用いて多くの人に、災害に対する意識を高めてもらいたいと思う。

5 謝辞

仙台多文化共生センター 石垣様
研究の進め方や内容について有益なお話と助言をいただきました。
サエル学院事務局長 外間友一様、生徒の皆さん
アンケート調査にご協力いただきました。
有難うございました。

6 参考文献

仙台多文化共生センター 仙台多文化共生センターへようこそ 2022年7月15日閲覧
<https://int.sentia-sendai.jp/j/exchange/>
日本語学校「サエル学院」
<https://saelu.net/jp/>